

## 事後評価書

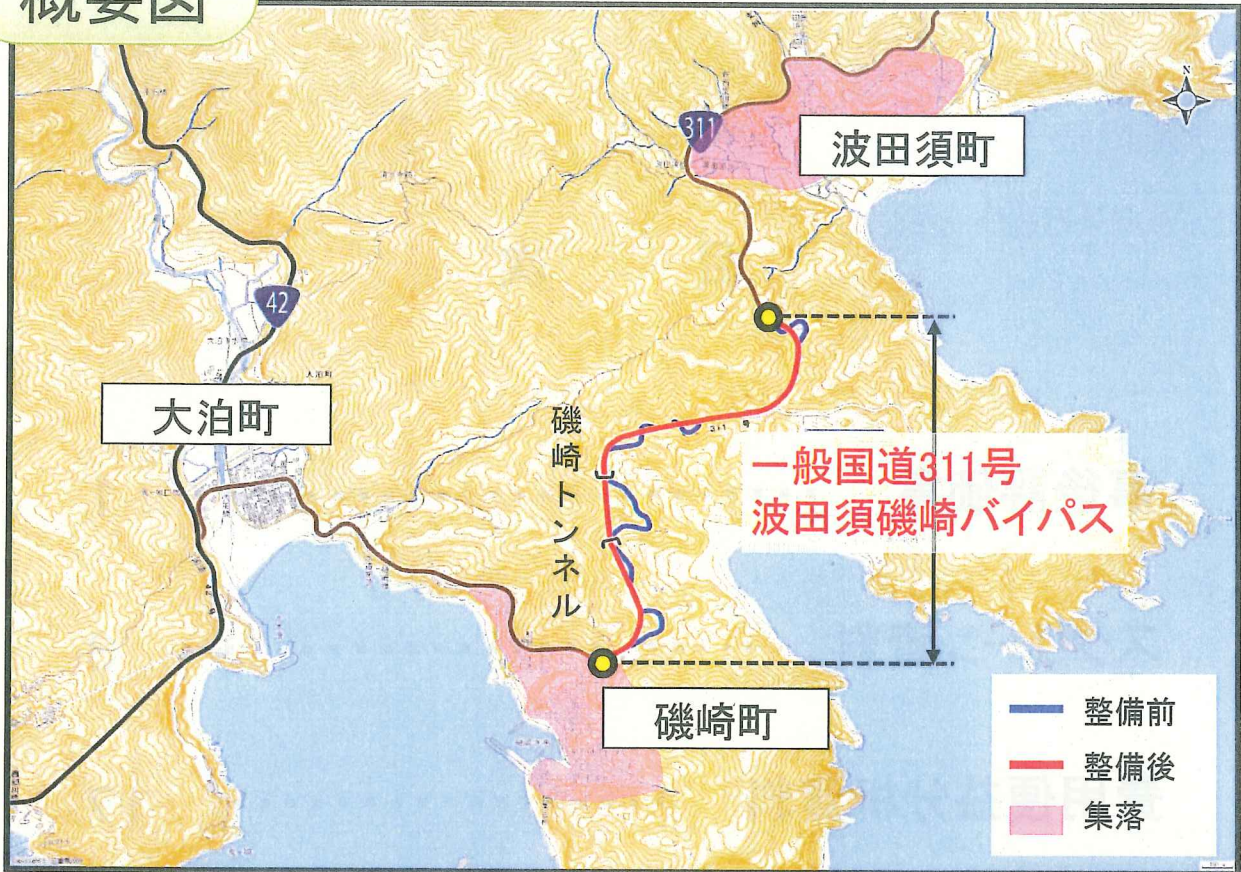
箇所名	一般国道 311 号(波田須磯崎バイパス)		事業名	道路事業	課名	道路建設課 (熊野建設事務所)
事業概要	工期 (下段前回)	H2 年度～H21 年度	全体事業費 (下段前回)	2,522 百万円(負担率:国:5.5 県:4.5)		
		H2 年度～H20 年度		2,500 百万円(負担率:国:5.5 県:4.5)		
事業目的及び内容		<p><b>■当該路線の状況</b>          国道 311 号は、尾鷲市大字南浦の国道 42 号を起点とし、和歌山県西牟婁郡上富田町の国道 42 号に至る実延長約 155 km の路線です。          このうち、尾鷲市から熊野市に至る熊野灘に沿った区間は、沿岸部に点在する集落と尾鷲市や熊野市中心部を結ぶ唯一の道路であるとともに、沿線には地域の主要産業である漁業の基盤となる漁港や熊野古道(世界遺産)、楯ヶ崎等の多くの観光資源があり、地域の生活や社会経済活動を支える重要な幹線道路となっています。また、国道 311 号は大規模災害発生時に地域の孤立を防ぎ、救助・救援活動や生活復興の基盤となる「緊急輸送道路」に指定されています。          しかし、尾鷲市～熊野市間は、リアス式海岸に代表される急峻な地形を通ることから、狭隘で屈曲した未改良区間が点在し、事前通行規制区間(雨量規制区間)にも指定され、幹線道路として十分な機能を有していない状況です。          当該事業区間についても、狭隘で屈曲したすれ違い困難区間であり、安全で円滑な通行に支障をきたしており、整備を行いました。</p> <p><b>■事業の目的</b>          ①未改良区間を解消し、安全で円滑な通行を確保          ②「緊急輸送道路」としての機能の確保を図ります。</p> <p><b>■事業の内容</b>          事業期間 20 年間(平成 2 年度～平成 21 年度)          総事業費 2,522 百万円(工事費 2,368 百万円、用地補償費 154 百万円)          事業延長 L=1,740 m(起点)熊野市波田須町～(終点)熊野市磯崎町          幅員 W=6.0(8.0)m          主要構造物 磯崎トンネル(L=175 m)</p>				
1 事業効果						
1-1 費用対効果分析		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 費用対効果を分析した結果             <ul style="list-style-type: none"> <li>走行時間短縮便益:34.7 億円</li> <li>走行経費減少便益:0.5 億円</li> <li>交通事故減少便益:0.0 億円(2.56 百万円)</li> <li>総便益 35.2 億円</li> <li>総費用 33.6 億円</li> <li>費用便益比は、「1.0」(1.049)となります。</li> </ul> </li> </ul>				
1-2 費用対効果の検証		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 走行時間短縮効果の検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>通行時間が約 3.5 分短縮されました。(6 分→2.5 分)</li> </ul> </li> <li>・ 走行経費減少効果の検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>事業区間の距離が約 2.4 km から約 1.7 km に短くなり、平面線形の改善や道路勾配が緩和されました。</li> </ul> </li> <li>・ 交通事故減少効果の検証             <ul style="list-style-type: none"> <li>事故件数が 1.75 件/年(平成 5 年～平成 9 年)から 0.77 件/年(平成 10 年(一部供用開始)～平成 23 年)に減少しました。</li> </ul> </li> </ul>				

1-3 その他の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>「命の道」としての機能向上 整備により、緊急輸送道路機能を確保するとともに、新鹿町や二木島町等から南牟婁郡御浜町阿田和地内の紀南病院(第二次救急医療施設)への走行時間が短縮しました。また、熊野市消防署警防課からは、「搬送時間が短縮された」「搬送時の患者への負担も軽減した」との声をお聞きしています。</li> <li>沿線地域の産業・観光の支援 熊野漁業協同組合及び熊野古道語り部友の会から、「魚の輸送時間が短縮された」「安全性が向上した」「観光バスを利用したツアー観光客が増えた」などの声をお聞きしており、沿線地域の産業・観光支援に寄与しています。</li> </ul>
2 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備に伴う改変範囲を少なくするため、現道区間をなるべく利用する平面線形としました。</li> <li>周辺景観との調和、周辺環境への配慮のため、法面を緑化しました。</li> </ul>
3 事業を巡る社会経済情勢等の変化	
	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>紀勢自動車道(熊野尾鷲道路含む)の整備</b> 平成24年3月には海山IC～尾鷲北IC間が、平成25年3月には紀勢大内山IC～紀伊長島IC間が開通しました。また、平成25年9月29日には、三木里IC～熊野大泊IC間が開通し、平成25年度末には紀伊長島IC～海山IC間が開通する予定となっています。 残る尾鷲北IC～尾鷲南IC間についても平成24年度に事業着手されており、熊野大泊IC以南についても事業化に向けた検討が進められています。 東紀州地域が待望している紀勢自動車道の整備により、国道42号や国道311号等の既存道路とともに、地域の骨格となる道路網が形成され、当地域の産業・観光の活性化が期待されます。</li> <li><b>道路機能への期待の高まり</b> 「南海トラフ巨大地震」の発生が危惧される中、平成23年3月の「東日本大震災」や9月の「紀伊半島大水害」の教訓をふまえ、地域住民の防災意識の高まりとともに、道路に対する大規模災害時における救助・救援等の機能に期待が高まっています。</li> </ul>
4 県民の意見	
	<p>当該事業に関する住民の意見を得るため、平成25年7月に沿線地域(熊野市須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町)を対象にアンケート調査を実施しました。また、広く意見を伺うべく、熊野市役所窓口にも調査票を設置しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査票配布数:1,281票 有効回答数:235票(回収率:18.3%)</li> <li>回答者の約5割が「ほぼ毎日」「週に3～4回程度」当該事業区間を利用しており、約9割が「大変満足」「満足」と回答しています。</li> <li>未整備区間の整備による「すれ違い困難区間の解消」「走行時間の短縮」について高評価を得ています。</li> <li>「今回の整備区間以外にも未整備区間が残っている」ことが不満な点として挙げられています。</li> </ul>
5 再評価の経緯	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成17年度の再評価において、事業の妥当性が認められたことから、事業継続が了承されています。</li> </ul>
6 今後の課題等	
	<p>国道311号の尾鷲市から熊野市に至る区間では、当該事業区間以外にも未整備区間が点在し、安全で円滑に通行できない状況です。今回実施したアンケート結果においても、「今回の整備区間以外にも未整備区間が残っている」に対する不満の声が挙がっています。</p> <p>現在、熊野市遊木町地内の未改良区間の整備を進めているとともに、熊野市甫母町地内においても事業化に向け検討を進めています。今後も地域の重要な路線として整備に努めていきます。</p>

## 位置図



# 概要図



整備前



整備後

# 標準断面図

